

沖縄県平和祈念資料館だより

平和祈念資料館で家族の語り合いをしよう

沖縄県平和祈念資料館は、旧資料館を移転改築して平成12年4月に開館しました。新たな機能として、子ども対象の常設展示「こども・プロセス展示室」と「情報ライブラリー」が付加されました。新資料館には平和学習、平和教育の拠点施設としての役割も求められたからです。

10年間(平成12年4月から平成21年3月まで)の観覧者の約7割は児童・生徒であり、そのうち9割は学校単位で来館します。平和学習に役立つ施設として認知いただいていると考えています。

当館の平和学習・平和教育支援として、県内小中学校の児童・生徒に対して観覧前に職員による平和講話を実施し好評を得ています。子供たちから寄せられる感想文や担当した職員への手紙には、沖縄戦など戦争が人々から大切なものを奪ってしまうことを知ったことや、平和に対する思いなどが綴られており、子どもたちの素直な反応は職員の意欲をさらに喚起してくれています。また、そ

の中には、「次は親と一緒に資料館に行きたいです」とか、「お母さんたちに教えてあげたいです」と書き添えられたものもあり、当館の今後の課題を示唆しています。

エントランスホールに面してある「こども・プロセス展示室」と「情報ライブラリー」は、気軽に何度でも足を運んでいただけるように無料となっています。沖縄戦の記憶を風化させないために、「沖縄のこころ」を共有するために、平和について考えるために、ご家族で当館を活用していただきたいと思います。

みんなで展示を観覧し、情報ライブラリーで調べ学習をして、心地よい海風が吹き抜ける前庭で太平洋の海原と青く広がる空を見ながら、ゆっくりと平和について語り合っていただきたいと思います。

沖縄県平和祈念資料館 館長 大川 芳子



第20回 「児童・生徒の平和メッセージ」

— 図画部門最優秀賞作品 —



小学校の部
与那国町立与那国小学校3年 西川夢乃
「へいわっていいね」



中学校の部
与那国町立与那国中学校3年 島袋香子
「未来への砂時計」



高等学校の部
沖縄県立豊見城高等学校3年 金城のどか
「美ら海からの祈り」

平成22年度事業

平成22年度第1回子ども・プロセス企画展を6月10日～7月11日に開催しました。今回の企画展では、「今、ほくに行えること・・・」をテーマに、平和な世界を築き上げるために何ができるかを、子どもたちに考える機会を与えることをねらいとした企画展にしました。展示構成は「児童・生徒の平和メッセージ」の過去の作品から選んだ詩と図画を組み合わせた展示をし、また核保有国や21世紀における紛争地域について学べ、その他平和に関する情報をクイズ形式で学べる展示なども行いました。



企画展「新収蔵品展—平成21年度新収蔵資料—」を終えて

新収蔵品展は、前年度の1年間で寄贈していただいた新たな収蔵資料を県民の貴重な共有財産として、その公開を趣旨に開催しています。昨年度は、個人22名、2団体より3,225点のご寄贈をいただきました。

今回の資料のいくつかを紹介しますと、旧日本軍兵士への慰問文の綴り、米軍から当時の沖縄県民に対する宣伝ビラ「琉球週報」、日本人将校に向けた「投降勧告ビラ」など、極めて貴重なものばかりです。また、沖縄県遺族連合会からの平和祈願慰霊大行進の写真では、この沖縄の地で生命を落とされた方々のご遺家族の想いを窺い知ることができます。

6月15日(火)から7月31日(土)にかけて開催した

ところ、県内外の多くの方に観覧いただきました。寄贈者の皆様のご厚意に改めて感謝申し上げます。



第20回児童・生徒の平和メッセージ展報告

今回で、20回目の開催を迎える「児童・生徒の平和メッセージ展」は当館の主要事業のひとつで、県内の小、中学校、高等学校、及び特別支援学校の児童・生徒に、日常生活の中で「平和の心や意識」を育み、県内をはじめ、国内外に平和のメッセージを発信するため、沖縄県教育

開催場所と期間

■ 沖縄県平和祈念資料館
6月23日(水)～7月8日(木)

■ 八重山平和祈念館
7月14日(水)～7月28日(水)

■ 県庁1階(県民ホール)
8月9日(月)～8月13日(金)



メッセージ展のテープカット(本館)

委員会との共催事業として実施しています。

今年は県内の166校から、過去最高となる4,621点の作品の応募がありました。これら多くの作品の中から、見事に入選した優秀作品83点を当館の展示会を皮切りに、八重山平和祈念館、県庁・県民ホールの3会場で巡回展示いたしました。

図画・作文・詩のいずれの作品も、児童・生徒のみなさんの平和への純粋な願いが込められており、「やさしさ」、「たくましさ」、「みずみずしい感性」にあふれた作品の数々は、子どもから大人まで展示会に来られた多くの方々の心に強い感動と感銘を与えていました。



メッセージ展 表彰式(県庁)

ピースメモリアルグッズ(PMG)開発事業

当館1階にミュージアムショップがあるのをご存知でしょうか。ショップは、平成19年にオープンしました。沖縄戦に関する図書、ビデオ、DVDの他、沖縄の伝統工芸品等も販売してしています。

ショップを設置して2年が経過しましたが、「総合案内」や企画展図録以外にオリジナルのミュージアムグッズがない状況でした。

そこで、今年度4月より県民に親しまれる施設をめざすとともに、館の展示内容の理解促進、館のイメージアップ、集客力の向上を図るため、ピースメモリアルグッズ(PMG)開発事業を進めることとなりました。

業者委託に向け、説明会を開催したところ19業者の参加がありました。そのうち、10社の企画提案書の提出があり、当館のPMG開発に対する期待の高さを感じました。

各業者から出された提案は大変すばらしいもので審査も大変でしたが、当館の設立理念・役割そして今回の

事業趣旨に照らして、「沖縄産業計画プラス海人工房」のコンソーシアムに委託することを決定しました。

今回の事業のため新規に6名を雇用し、7月26日に海人工房ビル4Fにて業務がスタートしました。素晴らしいピースメモリアルグッズができそうです。ご期待ください。



6月4日(金) 説明会の様子

第20回「児童・生徒の平和メッセージ」入選者一覧

■ 図画の部入選者

■ 作文の部入選者

■ 詩の部入選者

小学校の部 (10名)			小学校の部 (10名)			小学校の部 (10名)		
最優秀賞	西川 夢乃	(与那国小3年)	最優秀賞	大城 未歩	(神森小6年)	最優秀賞	奥間 友芽子	(さつき小6年)
優秀賞	山内 昌磨	(知念小6年)	優秀賞	鈴木 愛凜	(開南小2年)	優秀賞	嘉納 李子	(読谷小1年)
	當間 彩加	(大本小6年)		城間 日菜子	(長嶺小6年)		上原 晴美	(高良小6年)
優良賞	古見 天	(西表小1年)	優良賞	喜久山 朝大	(開南小2年)		優良賞	照屋 希之薫
	佐久川 陽菜	(渡慶次小2年)		豊川 あゆみ	(大道小3年)	優良賞	赤池 寛太郎	(白保小1年)
	照屋 凜	(米須小4年)		新垣 由布子	(真壁小6年)		眞榮城徳二郎	(大道小3年)
	小浜 実夕	(津嘉山小5年)		島袋 真子	(白川小6年)		松田 慶	(上田小4年)
	田中 伶佳	(座間味小5年)		後藤 南穂	(長嶺小6年)		慶留間 早紀	(糸満南小6年)
	渡邊 拓真	(座間味小5年)		古堅 美優	(神森小6年)		當間 亜斗夢	(真地小6年)
	根波 咲黄子	(長嶺小6年)		島田 奈奈	(北中城小6年)		嘉納 英佑	(読谷小6年)
中学校の部 (10名)			中学校の部 (9名)			中学校の部 (10名)		
最優秀賞	島袋 香子	(与那原中3年)	最優秀賞	宮良 亘	(石垣中2年)	最優秀賞	新里 正哉	(仲西中2年)
優秀賞	小橋川 夢芽心	(具志川中2年)	優秀賞	宇江城 美佑	(沖縄尚学高等学校附属中2年)	優秀賞	金城 雄大	(仲西中2年)
	丸山 咲	(川平中2年)		川平 真希	(沖縄尚学高等学校附属中2年)		比嘉 みなみ	(仲西中2年)
優良賞	上江洲 実香	(与那原中2年)	優良賞	大城 鷹信	(知念中1年)		優良賞	上原 由莉子
	當間 千夏	(与那原中2年)		野原 由梨奈	(沖縄尚学高等学校附属中2年)	優良賞	具志堅 茜	(南星中2年)
	鉢嶺 菜月	(与那原中3年)		田場 雄貴	(浦添中2年)		松田 七恵	(高嶺中3年)
	外間 春花	(知念中3年)		又吉 奈美希	(西崎中3年)		城田 ひかり	(知念中3年)
	狩俣 美波	(石嶺中3年)		大城 隋香	(知念中3年)		大見謝華奈子	(桑江中3年)
	喜屋武 未来	(西原東中3年)		前上門 莉絵	(仲西中3年)		嘉納 佳子	(読谷中3年)
	狩俣 碧	(大浜中3年)					上地 奈央	(佐良浜中3年)
高等学校の部 (10名)			高等学校の部 (5名)			高等学校の部 (9名)		
最優秀賞	金城 のどか	(豊見城高3年)	最優秀賞	知花 かおり	(球陽高3年)	最優秀賞	名嘉 司央里	(普天間高3年)
優秀賞	金城 由季乃	(那覇高1年)	優秀賞	稲福 秀佳	(前原高2年)	優秀賞	仲宗根 咲季	(北中城高3年)
	宮城 夏実	(普天間高1年)		優良賞	嘉数 祐二		(那覇国際高2年)	崎濱 稚恵
優良賞	東江 佳奈	(普天間高1年)	優良賞	福地 聡一郎	(那覇国際高2年)		優良賞	伊波 希
	八幡 利奈	(豊見城高2年)		森根 奈央	(前原高3年)	大城 聖羅		(那覇国際高2年)
	金城 未来	(真和志高2年)				宮城 寿香		(那覇国際高2年)
	翁 長 瞳	(首里高2年)				知念 千里		(首里高3年)
	仲本 莉那	(宜野湾高2年)				屋良 明歩		(球陽高3年)
	津留 侑希子	(普天間高2年)				請舛 楨紀		(前原高3年)
	神村 朱弥奈	(浦添高3年)						

沖縄県平和祈念資料館開館10周年記念特別企画展 「沖縄のこころを世界へ」

1. 期 間 平成22年10月10日(日)～12月12日(日) 沖縄県平和祈念資料館
平成23年1月19日(水)～2月26日(土) 八重山平和祈念館
2. 場 所 沖縄県平和祈念資料館 企画展示室
八重山平和祈念館 第2展示室
3. 趣 旨 住民を巻き込み多くの犠牲者をだした沖縄戦から65年が経過しました。今年は開館10年目の節目の年となります。そこで、今回の記念特別企画展では当館の10年間の歩みをふりかえるとともに、新たな10年に向けての当館活動を展望し、平和教育の拠点施設としての成長を考える機会とします。
4. 展示内容(予定) ①沖縄県平和祈念資料館10年のあゆみ
②沖縄県平和祈念資料館の事業・活動紹介
③平和博物館としての新たな展望



開館10周年記念特別企画展「沖縄のこころを世界へ」イベント

平和教育研究会—新しい平和教育の授業提案とフォーラム 「これからの平和教育のあり方を考える」(報告)

初めての平和学習の公開授業とフォーラムを6月5日(土)午後1時から当館で開催しました。協力してくれたのは、沖縄市立諸見小学校5年1組のみなさん。この研究会には南部・島尻地区、中頭地区の教師ら143名が参加し、提案した新しい平和教育の授業を熱心に見学するとともに、フォーラムにおいて活発な意見が交わされました。

公開授業では、はじめに諸見小学校の宮城信夫教諭が国語科から「沖縄戦を題材とした詩を教材として取り入れた授業」、また当館伊良部孝主査が総合的な学習の時間から「戦争体験のない教師が行う平和教育—児童の心に響く授業の提案—」の2本の意欲的な授業を実践し、児童たちが生き生きと学ぶ姿勢が見られました。

また、授業内容の検証も兼ねたフォーラムでは、嘉納英明名桜大准教授をコーディネイターに、宮城教諭・伊良部の両授業者に加え、語り部の大城藤六氏、横川亜希子名桜大学生、園原謙当館主幹の5名が授業の感想や今後の平和教育のあり方について意見を述べました。

参加者からは、「マンネリ化やパターン化している閉塞感が漂う今日の平和教育に一石を投じる斬新な授業手法について感心した」、「自分の授業でも試みたい」という声が多く寄せられ、大変好評を博した催しでした。



友の会の活動状況

■ 沖縄県平和祈念資料館友の会（平成17年設立）

友の会では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを自主的に行うとともに、以下のような活動を行っています。

- ①地域（県全域）および学校における平和学習支援
- ②県外からの平和学習団体への講話・ガイド
- ③沖縄県平和祈念資料館常設展示室での解説

■ 平成22年4月から7月までの活動状況は次のとおりです。

(1) 平和講話・ガイド実績 平成22年4月～7月現在

小・中・高校・その他37団体11,085人

(2) 常設展示室解説委員 配置実績 延べ51人 平成22年4月～7月

(3) 平成22年度 友の会総会 4月24日(土)

(4) 研修会フィールドワーク 4月24日(土)

研修地 ①与座岳 北面の陣地壕

②字賀数の古井戸(チーガー又はチンガー)

講師:伊禮進順氏(体験談)

宇宇江城出身・初年兵として沖縄戦に従軍。

沖縄戦終了後数ヶ月も南部古戦場で奮闘し、日本の無条件降伏後投降する。

講師:新田重信氏(体験者)

字賀数出身・戦時中家族は三分し(宮崎・国頭・地元)父親と三人の子ども四人は昭和20年3月から

12月まで家庭のチーガー(掘りぬき)井戸の中の横穴で生活し、米軍の捕虜にならなかった。

(5) 鯉のぼり掲揚への協力

(6) 平和祈念公園愛護活動への協力

(7) 平和祈念堂平和際への協力



平成22年度 総会



研修会 4月24日



研修会 4月24日

「千羽鶴の受け入れ」についてのお願い

児童・生徒が平和を願って心を込めて折った千羽鶴は、子ども達の平和を希求する純粋な願いであると考えています。

そこで、当館を見学、利用する学校等から千羽鶴贈呈の申し出がある場合は、次のように対応したいと考えております。



1. 受け入れ方法と場所

①千羽鶴受け入れは原則として学芸員が行います。事前にご連絡をお願いします。

②千羽鶴を設置、展示する場所は、子ども・プロセス展示室の入り口の横とし、設置は贈呈者の代表、または添乗員に行っていただきます。



贈呈された千羽鶴の展示状況場所

2. 展示期間と千羽鶴のリサイクル

①千羽鶴の館内での展示期間は1ヶ月程度とします。

②展示期間を過ぎた千羽鶴は再生紙へリサイクルするため、再生可能な材料での作成を推奨していますので、ご協力をお願いします。

③再生紙は、ノートやはがきとなり発展途上国の恵まれない子供たちへ配られたり、那覇マラソン完走賞の賞状など有用に使用されています。



千羽鶴再利用のため仕分け作業風景

八重山平和祈念館 平成22年度 事業実施報告

(1) 八重山平和祈念館企画展「戦跡からみる八重山の戦争」展

期 間:平成22年6月1日(火)～7月4日(日)

八重山諸島には、各地に100ヶ所を超える戦争遺跡があり、約20ヶ所に戦没者慰霊碑が建立されています。今回の企画展では、「戦跡」をテーマに八重山地域の各地に残る戦争の爪跡約50ヶ所を写真やパネルを中心に紹介しました。写真パネルでは戦争マラリア避難地跡や、各地に眠る避難壕、駐屯した旧日本軍の施設跡などを展示し、また今年1月に石垣市白保で発見された実物の不発弾の展示を多くの方々が興味深く見学していました。

開催期間中、平和学習の学校を中心に、約1,900名の観覧があり、「戦跡を知り、改めて平和について考えた」「石垣島の戦跡をたどってみたい」などたくさんの感想をいただきました。



戦跡展見学風景

戦跡地調査活動

上記企画展開催にあたり、体験者の方々の協力のもと各地の戦跡地や慰霊碑を訪れました。各地に眠る避難壕や、宮良部落に残る旧日本軍の陣地跡、戦争マラリアの避難地の白水地域などを体験者の方の協力をいただきながら調査しました。白水へは、潮平正道氏を講師に名蔵中学校の生徒の皆さんと共に訪れました。当時のままの御真影壕やたこつぼ、かまど跡などを見ることができ、当時の過酷な避難生活が目に見え、目に浮かぶようでした。



戦跡地調査(幕田隊棧橋跡)

(2) 「児童・生徒の平和メッセージ」展

期 間:平成22年7月14日(水)～7月28日(水)

八重山会場では、八重山地区の入選作品15点(図画10点、作文1点、詩4点)を含む57点の作品を展示しました。

開会式典では、八重山地区の入選者14名を招き、作文の部最優秀賞に輝いた宮良亘君(石垣中学校3年)などによる作品朗読や、代表生徒によるテープカットを行いました。児童・生徒やご家族など、たくさんの方々にご参加いただき、入選児童・生徒を激励しました。

会場には八重山地域の児童・生徒の入選作品を集めたコーナーを設置し、期間中入賞者の家族や親戚の方なども多数訪れ、子どもたちの豊かな感性にじっくりと見入っている様子でした。

八重山会場



メッセージ展 開会式(八重山)

《連絡先》

住 所 〒907-0014 沖縄県石垣市新栄町79番地の3

TEL/FAX 0980-88-6161

URL <http://www.pref.okinawa.jp/yaeyama-peace-museum/>

E-mail yaeyamaheiwa-mararia@basil.ocn.ne.jp

慰霊の日の平和祈念資料館

6月23日(火)慰霊の日には、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が行われました。毎年この日は常設展示室の観覧を無料にし、開館を午後6時まで延長しています。今年は5,479人の観覧者が入場しました。館内では「児童生徒の平和メッセージ展」「新収蔵品展」「プロセス展示展」などさまざまなイベントが開かれ、平和への願いを新たにする日となりました。



第20回児童・生徒の平和メッセージ「詩部門 高等学校の部 最優秀賞」 変えてゆく 沖縄県立普天間高等学校3年 名嘉 司央里

今日もまたはじまる
いつもの日常
当たり前前に食事をして
当たり前前に好きなことを学んで
当たり前前に安心して眠りにつく
そんな普通の日

今日もまたはじまる
いつもの日常
当たり前前に基地があって
当たり前前にヘリが飛んでいて
当たり前前に爆弾実験が行われている
そんな普通の日

一見「平和」に思えるこの小さな島
そこにいつの間にか当たり前ではない
当たり前であってはならないものが
入り込んでしまっていた

普通なら受け入れられない現実を
当たり前前に受け入れてしまっていた

これで本当にいいのだろうか

平凡な幸せを感じながら
ただただ「平和」を望む今
簡単にこの違和感を
無視していいのだろうか

黒いたくさんの礎
刻まれるたくさんの名前
そこで思い知る
戦争が残した傷跡の大きさ深さ
何も幸せなど生まれなかった
何も手に入れたものなど無かった
すべて失ったものばかりだった

忘れてはならない
この島であった悲しい記憶
目を背けてはならない
悲しい負の遺産
それを負から正に変えてゆく
それがこの遺産を背負い生きてゆく
私達にできること

変えてゆくのは難しい
しかし一人一人が心から
負である「戦争」を忌み嫌い
正である「平和」を深く愛する
そんな世界になれば
きっと正の連鎖がはじまるはずだ

六月二十三日 慰霊の日
あの黒いたくさんの礎には
たくさんの人々が訪れる
そして その一つの名前に触れ
涙を浮かべながら語りかける

「今年も会いに来たよ」と
手を合わせ目を瞑り祈りを捧げる
その訪れた人々に
「平和」を願わないものはいない

「一度あった事は二度ある」
そんな言葉を聞いたことがある
しかし、こんな悲惨な出来事は
もう繰り返してはならない
だから・・・
「一度あった事は二度とない」に
変えてゆこう、平和で塗りつぶしていこう
その想いはずっと届いているはずだから

資料のご提供について

戦後65年が経ち、戦争を知らない多くの戦後世代へ、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくためには、戦前、戦時中、終戦後の資料等がますます重要な役割を果たしていくことになります。このような資料をお持ちの方、貴重な思い出の品々かとは存じますが、ご提供をたまり、今後に活用させていただきますようお願いいたします。

ビデオの貸出について

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」全26巻の貸出しと資料館制作の沖縄戦ビデオ「そしてほくらは生き残った」「やーさん、ひーさん、しからーさんー 集団疎開児童の証言ー」のビデオの貸出しを行なっています。どうぞ、事前学習等でご活用ください。

見学するにあたって学校等への協力願い

当館では来館者が安全で快適な見学が行えるよう、以下のことについて、ご協力をお願い致します。

- ほかの来館者の迷惑にならないようマナーを守り静かに見学しましょう。
- 平和学習を効果的に行うために、引率の先生方も児童・生徒とご一緒に見学することをあすめします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
E-MAIL webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp